

4 国際バカロレアの教育プログラムについて、ご理解いただけましたか

<ご意見・ご感想欄>

- ・ 知っていた。
- ・ 30年度に開校が予定されている中高一貫教育校の事について具体的に知りたかった。
- ・ 概ね理解出来たが、もう少し詳しい部分も知りたいと思った。
- ・ 特に長谷川先生の講演が素晴らしかった。
- ・ 外国や県外での実践は知ることができたが、高知で具体的にどのように実践していくつもりかしっかりと聞きたかった。理想像については、理解できた。
- ・ 公立で2校目を目指していることが分かった。グローバル人材育成は大賛成である。これまでの日本の教育の良さも生かしていければなお良いと思う。
- ・ (現社会は)倫理の欠如あり、政治・企業の倫理教育も責任あり(フォルクスワーゲン問題、ブラック企業問題)。
- ・ 概要から、大学・文科省・経験者・企業・推進者のお話を聞けて、大変すっきりした。
- ・ 求められている力を身に付けるためのプログラムであることが理解できた。
- ・ 論理的思考・文章の構成力が付き、常に自分の意見、思考が求められるところ・さらに応用力等、かなり高いレベルでの教育だと感じた。
- ・ 「地域にもグローバル人材は必要となる」その通りだと思う。
- ・ IBがよく分かると思うので、IBのディスカッションの課題や試験問題をもっと知りたいと思った。
- ・ 「IBでは知識を求める姿勢を学ぶことが出来た」という卒業生の話が強く印象に残った。
- ・ 松木室長のパワポにバカロレアの試験問題があったが、バカロレアの目指すものが良く表れていると思った。
- ・ 卒業生、企業の方からのお話からも理解が進んだ。
- ・ パンフレットに大学入試制度の改革も進んでいます、という欄があり、IBと「大学希望者学力評価テスト(仮称)」を新中高一貫教育校でIBのプログラムを取りながら、学力評価テストも受けられるのか分からず、混乱している。全く別のものだけIBプログラムをこなしていたら学力評価テストも十分に受けられるということ？
- ・ IB校に入るための入試は競争率が高くなると思うけれど、その入試は他の公立校と内容は同じ感じなのか？
- ・ 高知県に、IBを提供できる人材がどれだけいるんだろう…と思った。理念などはよく分かった。
- ・ こういう教育が公立校で、高知で実施されようとするところはすごい事だと思う。
- ・ インターナショナルスクールのためのものと思っていたが、日本語で公立校でスタートするのですね。
- ・ 疑問に思っていたことが、パネルディスカッションで聞けて安心した。
- ・ 教育プログラムの話かなと思っていたが、社会や世界の変化を合わせて伺うことができたので、とても勉強になった。
- ・ 卒業生とか、メリット、デメリットの話などとても分かりやすく、とても有意義なシンポジウムだった。
- ・ 語学分野に特化したものという訳でなく、もっと本質的なものだと感じた。
- ・ グローバル人材を育成していくうえで世界に通用する教育プログラムであり、この教育プログラムを受けることで、国外や県外、地域で活躍できる能力を持つバランスのとれた人材を育てることが出来るプログラムだと理解できた。
- ・ 高知県でも、このような教育プログラムを学べることは、とてもすばらしいと思った。高知の明るい未来が感じられた。
- ・ 授業のカリキュラムや、具体的な内容など聞きたかった。
- ・ かなりむずかしいと思った。自分で考える力が相当必要。
- ・ 私の受けてきた教育とはちがう、より社会に出た時に有利な教育プログラムと感じる。
- ・ 生徒達(中学生)は「授業がわからない」「人間として尊敬できない(理由:話を聞いてくれない、暴力的、やる気がない)などのしんどい学生生活を送っており、質の高い教育としての学びをしたかったので大変良かった。
- ・ バカロレア教育はとても良いものだったと思うが、小・中学校の頃から、高知県であれば地域の魅力に触れていくことが必要になってくるようにも思った。「急に」変化することは良い影響ばかりではないように感じた。
- ・ 今までよく知らなかったが、具体的な形で理解することが出来た。日本における教育でも大きくこれからつながってくることも感じた。
- ・ 素晴らしい教育プログラムだと思う。この通りのカリキュラムを履修できたら素晴らしいし、たくさん子ども達に学んでほしいと思った。
- ・ 多様化した若い世代を伸ばすためには良い教育かと思う。IBの指導者はどのような指導法を、どこで得るのか？
- ・ グローバル化時代の教育のあり方について理解が深まった。教師の指導の質的転換は必要だと感じている。
- ・ 日本の中高は米英に比べて学校での勉強が少ないと言われているが、国際基準に合わせてもらえるということは、とても期待できることだと思う。
- ・ プログラムについてはわかったが、高知で入学する時のテストは？
- ・ 是非チャレンジさせたいと思っている。
- ・ このようなプログラムを国をあげて取り組む様になった事は大変素晴らしく、これからの日本を背負う子ども達を育てていく意味においても大変良い事だし私達家庭でも何かしらの取組みをするべきだと考えさせられた。具体例がもっとあれば良かった。どの程度、英語で授業が行われるのか知りたかった。日本でのIBはどのようなか？
- ・ 高知で教授をしっかりできる人材がうまれることに期待する。
- ・ IBで高スコアをとるための塾ができるのでは？
- ・ 国際バカロレアの教育プログラムを教えられる教師が高知にいるのか、疑問。
- ・ 新中高一貫教育校で20名でなく、もっと学校を増やしてほしい
- ・ 長谷川先生がおっしゃっていたようにはたして実現できるのか、授業できる教師が本当に存在するのか、この部分が非常に心配。名前だけ看板だけにならないかと危惧する。
- ・ 育成する力については理解できるが、グローバル=IBではない、IBと学校との関係、教員養成、評価等々具体的な運用は不明のままだった。

4 国際バカロレアの教育プログラムについて、ご理解いただけましたか

〈ご意見・ご感想欄〉

- ・IBを細かく調べさせてほしい。
- ・少人数教育にならざるを得ない？教える側の人材確保、質が、難しそう。IB受験科目、内容などは？
- ・文理バランスよく勉強するのは、既存の学校教育でも、カリキュラム上はほぼそうなっている。が、IBの方が論理的に考えるから、文理それぞれの質が高いということ？
- ・教育プログラムは優れたものであると思うが、プログラムを考える人材の育成が必要だと思った。
- ・このような学習スタイルが深まれば、東大(東京)に行く必要がないのではないか。
- ・これからも、バカロレア教育について、こういった説明・勉強の場があれば良いと思う。
- ・全人教育の大切さ。
- ・意義は分かったが、本当に日本国内すべての子ども達のための教育プログラムなのか、という点では疑問が残った。経済格差と教育格差が叫ばれる中、一部の経済的余裕のある子供たちのため？という感が残った。パネルディスカッションでこの疑問は解けたが、ハード面の準備が大変ではないかと思う。
- ・バカロレアというものはTPPの議論と同時期に、突然あがってきたように感じていた。何か異質なものすぎて、ある種恐怖のようなものを感じていたが、今回まだ課題もありながら、子どもの可能性を広げるものだと分かった。
- ・早く実現してほしいプログラムだと思った。子供達が大人になる時には、無視できない現実の問題だと思う。
- ・指導者の育成が大変だが、普及につとめてほしい。
- ・世界共通というのは分かるが、明確な評価基準があるのかが知りたい(誰がどの観点やレベルで評価するのか)。
- ・ディスカッションの中でも出されたが、指導者の育成がカギとなる。「正解を覚える」教育を受けてきた我々が、主旨の理解はできても実践できるかどうか。真の学力をつけるために、勝負をかけて臨むべき。
- ・こんなに素晴らしい教育なら、日本の公教育をすべて国際バカロレアに切り替えればいいのと思う。
- ・長谷川さん、松木さん、坪谷さんと重ねて説明があったので、大変分かりやすかった。
- ・高知県でも数年前とは違って外国人の方と身近に接することが多くなっており、身のまわりでも国際化の実感がある。子供たちに教えてもらえる先生もあわせて育成していく事が重要なのかなと感じた。
- ・やっと高知にも国際バカロレアが来たかと待っていた。本当は兄(中3)をこういう学校に入れたいと思ってきたが、なかったので明德義塾にした。
- ・日本を変える人材の育成、教育プログラムに期待している。
- ・仕事選択、活躍の場が広がりそう。
- ・地方で、公立で、がポイント。ぜひ成功させてほしい。ネックは教員の指導力だが、中期的計画を立てて解決してほしい。
- ・実際IB導入校でどのようなことが今行われているのか、そして良い点・悪い点をもっと具体的に知りたかった。
- ・色々な立場の方から分かりやすい話を聞くことができ、理解が深まった。
- ・教育関係者でありながら、詳細について知らなかった。もっと情報を多くの関係者が知り、考えるべきだ。
- ・骨子や大枠が分かった。次回は授業や教材内容が知りたい。
- ・まだ詳細について理解できていない。
- ・色々な立場の人の意見が聞けて具体的なことが分かった。
- ・現在の子ども教育にも生かせる部分がたくさんあることが確認できた。
- ・実際高校でのカリキュラムはどうなるのか、具体的に聞きたかった。6科目を受けることは解ったが、IBクラスが英語科のように出来るということか？
- ・長嶺さんのお話で大分理解できたと思う。
- ・一部の高校でなく、将来的にはIB学習が一般的になるのだろうか。それができるのか、などと思ってしまった。
- ・世界基準の教育で、能動的な学習という点に興味があった。
- ・IBは素晴らしいと思った。
- ・答えが1つではない課題が出される中で、どのように点数評価されるのか知りたい。
- ・国内での修了のためには、どの程度の英語力が必要なのか知りたい。
- ・これまでと同じ、単なる欧米化(英語偏重)にならずに、グローバル人材育成が行われるだろうか？
- ・DPのカリキュラム6科目のうち、「芸術は他の科目に代えることも可能」というのは、これまでの知識つめこみ教育の進学校のやり方と同じではないか？と不安になった。(自分の通った進学クラスは、芸術の授業がなく、単位数だけ無理やりつけるやり方だったので)
- ・バカロレアのカリキュラムをやっていると、いわゆる一般教科の時間数が減ると思われる。大学の受入れ体制をさらに充実させる必要がある。
- ・体験者本人の話を聞いたのが良かった。大学、企業の立場も参考になった。
- ・IBの求める人材像と企業の求める人材像がほぼ一致している事がわかり、興味深かった。
- ・IBの内容は理解できた。
- ・現在「自分で考える」という力を身に付けることがとても大切だと日々感じており、重要語句を覚える授業から、いかに「考える」授業にもっていくか悩んでいる。その点IBはとても良いと感じた。
- ・何人もから同じような話があったため、概要が理解できた。卒業生の話は、特に具体性があったので興味深く聞くことができた。
- ・教員の確保、育成が課題だと感じた。また、答えが1つでない以上、評価の仕方も難しいのでは？と感じた。
- ・理念はすごくよく分かったが、プログラムの内容については不十分だったのでは。
- ・素晴らしい理念である。実践力をつけ成功を祈るが、生徒全員に、こんな高い教育がはたしてできるのか。
- ・高知県関係者の意見が少ない。
- ・パネルディスカッションでも協議された、教員の養成が急がれるように思う。